

ボジョレー速報 2020年

2020年の収穫まで1ヶ月を切ろうとしている！今年は、コロナ危機をよそにブドウはかつてないほど早いペースで成長を遂げている。また春に遅霜がなかったことと開花が順調だったことで、今年は2018年に匹敵する豊作が期待されている。この未曾有の危機の中、果たしてカリーム、ジャン、フレッド&ケヴィンはどのようなヌーヴォーを作り上げてくるのだろうか!?

◇ カリーム・ヴィオネ

今年の収穫は8月24日を予定している。今までで一番早い収穫だ。ヴェレゾンもフランス革命記念日の7月14日から始まった。ただ、今年は収量が多いことと、夏の猛暑と乾燥により若干成熟のスピードが落ちてきているようにも見えるので、とりあえず24日に一部収穫を開始し様子を見ながら収穫日を調整して行こうと思っている。とにかく、このまま行くと今年は収量の取れた2018年に匹敵する当たり年になることは間違いない。ただ、7月の後半から毎日35℃を超える猛暑が続き、ブドウもこのままでは疲弊してしまうため、欲を言えば8月中旬に30mm程度の雨が降ってくれることを願っている。



サン＝ティエンヌ＝デ＝ズリエールの畑



7/24 時点のヴェレゾン

◇ ジャン・フォワヤール

今年の収穫は8月28日を予定している。8月の収穫は今まで経験したことがない異例の早さだ。ヴェレゾンは7月20日前後に始まった。7月22日に積乱雲が発生し、雹が心配されたが、結局雨も雹も降らなかった。ブドウは今のところ病気も一切なく、収量を維持したまま成熟に向かっている。ただ、7月の終わりから8月5日現在も猛暑と日照りが続いていて、ブドウの成熟にも徐々にだがブレーキがかかり始めている。天気予報によると8月16日前後と22日前後に天気が崩れるとの予報があり、このまま予報通りに雨が降れば、収量に恵まれた最高のミレジムになることは間違いないが、これが雹のリスクになるとも限らないので、まだまだ予断は許さない。



ヌーヴォー用の畑



7/24 時点のヴェレゾン

☆ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

今年の収穫は、とりあえずレーニエ村の標高の低い畑は8月31日、標高の高いマルシャン村の畑は9月5日、6日前後を予定している。ただ、7月終わりから続く猛暑の影響により特にマルシャン村のブドウの熟しがまちまちなため、もう少し様子を見たいと思っている。いずれにせよ今までの中で一番早い収穫となることは間違いないだろう。ヴェレゾンはレーニエ村の畑が7月20日前後、そしてマルシャン村の畑が7月24日前後に始まった。ブドウの状態は、レーニエ村の畑は少し夏バテ気味だが、病気もなく健全な状態を保っている。一方、マルシャン村の畑は昼夜の寒暖の差から朝霧がかかりやすく、若干オイディウムが見られる。また7月22日に軽く雹に当たったが、大きなインパクトはなかった。今のところ毎日30℃を越す猛暑が続いているが、今年の猛暑と違うところは朝の気温が涼しいこと。昼と夜の気温に大きな差があることは、ブドウのフェノールの完熟に大いにプラスであり、今年は収量だけでなく品質的にもグレート・ヴィンテージが期待される！



若干オイディウムが見られる



7/24 時点のヴェレゾン

猛暑の予報は的中。でも、そんな中3生産者ともブドウは健全な状態を維持しているようだ。今年はケヴィンの言う通り、夏でも昼夜に寒暖の差があり、これがブドウのフェノールの熟しを促し、最終的に質の高いワインへと導いてくれそうだ！ただ一方で、連日続く猛暑によりブドウの水不足が心配される。2020年がグレート・ヴィンテージへとなるカギは、どうやら収穫前の雨にかかっているようだ。さて、次はまさに収穫直前のレポートとなるが、皆の期待通り恵みの雨は降ってくれるのか！？

次のレポートもお楽しみに！

(2020年7月24日訪問(写真)&8月5日、6日電話メールレポートより)

ボジョレー速報 2020年

今年もボジョレー・ヌーヴォーの季節がやってくる！

2019年は、春の遅霜から始まり、夏に記録的な猛暑に見舞われるなどまるでジェットコースターのような気候のうねりの中、最終的に平均以上の収量が取れた年だった。

2020年は、コロナ危機をよそにブドウはかつてないほど早いペースで成長を遂げている。また春に遅霜がなかったことと開花が順調だったことで、今年は2018年に匹敵する豊作が期待されている。世界中が未曾有の危機の中、果たしてカリーム、ジャン、ケヴィン&フレッドはどのようなヌーヴォーを作り上げてくるのだろうか!?

◇ カリーム・ヴィオネ

開花は5月20日に始まりわずか1週間ほどで終わった。これは例年よりも1ヶ月ほど早いペースだ！開花から90日~100日後がブドウの収穫日と言われているので、このままのペースで行けば8月後半の収穫もありえないわけではない。今年は冬らしい冬がほとんどなく雨が多かった。春になると雨はピタリと止み、3月から5月後半まで乾燥した天気が続いた。6月に入り現在まで50mm程度の理想的な雨が降ったことでブドウは一気に成長スピードを上げている。今のところ病気はほとんど見られず、敢えて気になる点を挙げるならば、おそらく6月の気温の寒暖差のストレスによるカリウム不足であろう、赤く変色したブドウの葉が多く見られることくらい。それ以外はほぼパーフェクトだ！



カリウム不足で葉が赤く変色したブドウの樹



サン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールの畑

◇ ジャン・フォワヤール

開花は5月22日に始まり、何も問題なく順調に終わった。今年のブドウは、直近で一番早熟だった2011年よりも早いペースで成長が進んでいる！巷では8月20日前後に収穫が始まると言われているが、実際ブドウの房も今年が多いので、私自身は熟するのに時間がかかり最終的に収穫は9月初めくらいになるだろうと予想している。今のところ病気もほとんどなくとても順調だ。今年はブドウの特徴として、珍しく実がOlivette（オリヴェット）と呼ばれるオリーブ状の楕円形となっている。この形は果汁を多く含みやすいので、このまま電などの被害がなければ大豊作が期待できるかもしれない！



早熟だった 2011 年よりも早いペースで成長中！



ブドウの実がオリーブ状の楕円形になっている

◇ フレデリック・コサル&ケヴィン・デコンブ

開花はレーニエ村の標高低い畑は 5 月 25 日頃、一方、標高の高いマルシャン村の畑は 6 月 6 日前後に始まった。マルシャン村は標高が高く開花時は気温に敏感なため通常は結実不良を起こしやすいのだが、今年は冬が暖かく春もそのまま暖かさが続いたこともあり開花はとても順調だった。結果ブドウの大きさも均一で、いつも以上に収量が期待できそうだ！また、今年は収穫がいつもよりも早まりそうなので、前年よりもマルシャン村のブドウのアッサンブラージュの割合を増やせるかもしれない！（ちなみに前はレーニエ村のブドウ 70% に対しマルシャン村のブドウは 30% だった）マルシャン村のブドウは果実味がピュアできれいな酸があり、この割合を増やせれば必然的にワインはエレガントでフィネスある仕上がりが期待できる！

今のところ、ブドウは病気や水不足もなくとても順調に育っている。ただ、一方で今年は、土壌にカリウムと窒素が不足しているためか、葉の色が赤や黄色に変色したブドウの樹が所々に見られる。



標高が高く斜度のあるマルシャン村の畑



開花は順調で、写真のような結実不良は少ない

3 生産者とも今年は開花が上手く行き、豊作が期待できそうだ！また、ブドウが例年よりも早熟であることが、ヌーヴォーの醸造に大きくプラスに働きそうでもあり、今から当たり年の予感がポンプンする！さて次のレポートはまさに夏本番だが、予報で昨年のようにまた記録的な猛暑が訪れると言われている。果たしてこの予報は本当に当たるのか！？次のレポートもお楽しみに！

(2020 年 6 月 17 日訪問 (写真) & 7 月 3 日メールレポートより)